

SHIRAKOBATO

# 白鳩



1988. 6

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.49

日本野鳥の会 埼玉県支部

# ヤマガラ、過去50年の生息記録

— 1988年冬鳥分布調査 —

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

12月、1月の移動性高気圧が天気を定める異例の暖冬、2月の西高東低の気圧配置もたらず厳冬とコントラストの強い1988年冬は、珍鳥の飛来、冬鳥飛来数の減少と極端な鳥相を示しました。

1988年冬の県内野鳥分布調査は会員諸氏の御協力(表1)により実施され、地域別(表2)の種別生息状況(表3)が得られました。

ヒガラ、コガラが亜寒帯針葉樹林、ハシブトガラが針広混交林、シジュウカラが冷温帯落葉広葉樹林、ヤマガラが照葉樹林とカラ類は日本の森林植生を住み分けています(小荷田1986)。関東地方の台地、丘陵の極相林である照葉樹林は本来ヤマガラの生息域でしたが平安後期からの森林伐採により徐々に狭められ、その人為代償植生であるクヌギコナラアカマツ林にはシジュウカラが進出しました。現在の埼玉ではヤマガラは主に越冬鳥で、繁殖鳥としてはごくまれになり、ここ50年はその傾向が著しくなっています。(表4)。

(執筆 小荷田行男)

## < 文 献 >

小荷田行男 1986 針広混交林における生態系の特色 ワイルドライフ・レポート、No.3 31~39 野生生物情報センター 札幌

## 表1 調査概要

調査期間	1987年12月1日~1988年1月3日	
調査者	会員	52名
調査内訳	調査はがき	32枚
	調査票	152枚
調査メッシュ	206メッシュ	

## 表2 埼玉県の地域区分

地域	地形区分	おもな都市名	備考
県南東	低地	草加、越谷	
県南中	台地、低地	川口、浦和、大宮、上尾	
県南西	台地、低地	所沢、川越	
県央・東	低地	鴻巣、久喜、加須、栗橋	
県北	台地、低地	熊谷、深谷、本庄	
県西南	丘陵	飯能、越生	1986年冬より調査開始
県西北	丘陵	皆野、寄居	
秩父	山地	秩父山地	

表4 埼玉における過去50年間のヤマガラの生息

地域	調査地	調査年	冬鳥	夏鳥	文献
県南東	草加	1938~1942	○	—	(野口 1942,1943)
	越谷	1979~1980	—	—	(日本野鳥の会 1982)
	越谷	1986	未調査	○	(埼玉県野鳥の会 1987)
	越谷	1986~1987	—	—	(越谷の自然を調べる会 1987)
県南中	県南東	1985	未調査	—	
	県南東	1986	—	—	
	県南東	1987	—	—	
	県南東	1988	—	—	
県南	見沼	1972~1983	○	○	(大島 1983)
	秋ヶ瀬	1973~1984	—	—	(松田 1984)
	秋ヶ瀬	1974~1982	○	○	(埼玉野鳥研 1984)
	県南中	1985	未調査	○	
県南西	県南中	1986	○	○	
	県南中	1987	○	—	
	県南中	1988	○	—	
	狭山丘陵	1965~1979	○	○	(荻野 1980)
県南	所沢、入間、狭山	1982	○	○	(入間野鳥の会 1983)
	県南西	1985	未調査	—	
	県南西	1986	○	○	
	県南西	1987	○	—	
県央・東	県南西	1988	○	—	
	庄和	1983~1984	—	—	(吉岡 1984)
	県央・東	1985	未調査	—	
	県央・東	1986	—	—	
県北	県央・東	1987	—	—	
	県央・東	1987	—	—	
	県北	1983~1977	○	—	(堀江他 1978)
	熊谷、川本	1985~1986	○	—	(今井 1986)
県西南	県北	1985	未調査	—	
	県北	1986	—	—	
	県北	1987	○	—	
	県北	1988	—	—	
県西北	県西南	1985	未調査	未調査	
	県西南	1986	○	—	
	県西南	1987	—	—	
	県西南	1988	○	—	
秩父	県西北	1985	未調査	—	
	県西北	1986	○	—	
	県西北	1987	○	○	
	県西北	1988	—	—	

表 3 県内の地域別種名生息状況

種名	地域		'86年冬	'87年冬	県南東	県南中	県南西	県央・東北	県西	県北
カイツブリ	○	○			○	○	○	○	○	
ハジロカイツブリ	○						○			
ミミカイツブリ							○			
アカエリカイツブリ					○					
カンムリカイツブリ	○	○				○				
カワウ	○	○			○	○	○	○		
ゴイサギ	○	○			○	○	○	○	○	
ダイサギ	○	○			○	○	○	○	○	
チュウサギ		○			○			○		
コサギ	○	○			○	○	○	○	○	
アオサギ	○	○			○	○	○	○		
コウノトリ							○			
クロツラヘラサギ							○			
マガン		○								
コブハクチョウ	○	○					○			
コハクチョウ	○	○					○			
オシドリ	○	○					○			
マガモ	○	○			○	○	○	○	○	
カルガモ	○	○			○	○	○	○	○	
コガモ	○	○			○	○	○	○	○	
トモエガモ	○	○					○	○		
ヨシガモ	○	○			○		○			
オカヨシガモ	○	○					○			
ヒドリガモ	○	○			○	○	○	○		
アメリカヒドリ	○	○					○			
オナガガモ	○	○			○	○	○	○		
ハシビロガモ	○	○			○	○	○	○		
ホシハジロ	○	○				○	○	○		
オオホシハジロ	○						○			
キンクロハジロ	○	○			○	○	○			
スズガモ	○	○					○			
ホオジロガモ	○	○				○		○		
ミコアイサ	○	○				○	○			
カワアイサ	○	○				○	○			
トビ	○	○						○	○	
オジロワシ		○								
オオタカ	○	○			○	○		○		
ツミ	○				○			○		
ハイタカ	○									
ケアシノスリ	○									
ノスリ	○	○			○	○	○	○	○	
ハイイロチョウヒ	○									

種名	地域		'86年冬	'87年冬	県南東	県南中	県南西	県央・東北	県西	県北
チュウヒ				○				○		
ハヤブサ	○	○			○		○		○	
コチョウゲンボウ	○	○								
チョウゲンボウ	○	○			○	○	○	○	○	○
ウズラ	○	○				○		○	○	
コジュケイ	○	○			○	○	○		○	○
キジ	○	○			○	○	○		○	○
クイナ	○	○			○	○				
シロハラクイナ						○				
バン	○	○			○	○				○
タマシギ	○	○				○				
コチドリ	○	○			○	○				
イカルチドリ	○	○			○	○		○	○	○
シロチドリ	○	○				○		○	○	
ムナグロ	○	○				○				
ケリ	○	○				○				
タゲリ	○	○			○	○	○	○	○	
ハマシギ	○	○				○		○	○	
オオハシシギ						○				
クサシギ	○	○				○			○	○
タカブシギ	○	○				○				
イソシギ	○	○			○	○	○	○	○	○
ヤマシギ		○								○
タシギ	○	○			○	○	○	○	○	
ユリカモメ	○	○			○	○	○	○	○	
セグロカモメ	○	○			○	○		○		
カモメ						○				
ウミネコ	○	○				○				
シラコバト	○	○			○	○		○		
キジバト	○	○			○	○	○	○	○	○
アオバト	○									
トラフズク	○	○				○				
コミミズク	○	○				○		○	○	
オオコノハズク		○								
フクロウ		○								
ヤマセミ	○	○							○	○
カワセミ	○	○			○	○	○	○	○	○
ヤツガシラ	○									
アリスイ	○	○								
アオゲラ	○	○				○	○		○	
アカゲラ	○	○				○		○	○	
コゲラ	○	○				○	○	○	○	○

種名	地域		'86年冬	'87年冬	県南	県中	県西	県東	県南	県西	県北
ヒバリ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
イワミセキレイ			○								
キセキレイ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハクセキレイ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
セグロセキレイ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビンズイ			○	○	○	○	○				
ムネアカタヒバリ					○						
タヒバリ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒヨドリ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
モズ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
オオモズ			○				○				
キレンジャク				○							
ミソサザイ			○	○					○	○	
カヤクグリ			○							○	
ルリビタキ			○	○	○	○		○	○		
ジョウビタキ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロジョウビタキ			○		○						
イソヒヨドリ			○								
トラツグミ			○	○	○	○	○				
アカハラ					○		○	○			
シロハラ			○	○	○	○	○	○			
ツグミ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ウグイス			○	○	○	○	○	○	○	○	○
オオセッカ			○								
ククイタダキ			○	○	○						
セッカ			○	○	○	○	○		○		
エナガ			○	○	○	○	○	○	○	○	
コガラ			○	○							
ヒガラ			○		○	○					
ヤマガラ			○	○	○	○		○			
シジュウカラ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴジュウカラ			○	○							
メジロ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホオジロ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ホオアカ			○		○	○					
カシラダカ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ミヤマホオジロ			○	○	○		○				
アオジ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロジ			○				○				
オオジュリン			○	○	○	○	○				
アトリ			○	○	○		○				
カワラヒワ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
マヒワ			○	○	○		○		○		

種名	地域		'86年冬	'87年冬	県南	県中	県西	県東	県南	県西	県北
ハギマシコ			○								
イスカ			○								
ベニマシコ			○	○					○		
ウソ			○	○							
コイカル			○								
イカル			○	○		○			○	○	
シメ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
スズメ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
コムクドリ					○						
ムクドリ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
カケス			○	○	○	○	○	○	○	○	
オナガ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシボソガラス			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハシブトガラス			○	○	○	○	○	○	○	○	○
ドバト			○	○	○	○	○	○	○	○	○
セキセイインコ			○	○	○						
ワカケホンセイインコ					○						
ベニスズメ									○		
コリンウズラ									○		



冬鳥調査第一基本盛装



## ||||| 鳥体計測体験記 |||||

榎本秀和 (鴻巣市)

バードウォッチャーにとって、野鳥は一定の距離を置いてしか接することのできない相手である。ところが先日、その相手(死骸ではあるが)を手にとって、その体の各部分の測定や標本の作成を実習する機会に恵まれた。

最初は山階鳥研の黒田長久先生の講義である。鳥類の体を計測し、データを積み重ねていくことが、学問的にいかに意義があるか、というお話だった。

講義が終るといよいよ実習。私に与えられた教材は8のモズであった。解凍したばかりの鳥体は、手を触れるといかにも頼りない感触で、やせこけた胴体に羽毛が張り付いている感じである。野外では、もっと大きく、羽毛の膨らみの分だけ丸く見えるけれど、鳥の体つきなんてこんなものかもしれないな、とちょっと寂しい気持ちになった。

そんな感傷に浸りながらも、両手は事務的に作業を進めていく。カワセミやハイタカなども手に取って観察することができた。なか

でも、シロハラは腹面が、図鑑から想像できないほどに純白だったのが印象的だった。

標本の作成は講師の作業の見学だけであった。

学術標本はいわゆる仮剥製で、展示用の本剥製とはだいぶ異なっている。まず腹面にメスを入れ、あとは指の爪だけでミカンの皮をむくように皮膚を剥いでいく。頸椎、肩、脚の骨、尾の付け根をはさみで切断し、内臓を取り出す。次に頭をむいて頭骨を出し、脳と両眼を摘出する。頭骨の内側をきれいに拭いて綿を詰め、胴体にも綿を巻いた竹ひごを入れて縫合すれば大体できあがり。あとは背中をまっすぐに伸ばし、顎をいっぱい反り返らせて棒状に仕上げる。

いささか簡略に述べすぎたが、初めてこの作業を見る者にはショッキングな光景であった。ふだん親しんでいる鳥たちが、見るもあわれに皮をむかれる姿はあまり見たくなかった、というのは私の正直な感想である。私はただの愛鳥家であって、研究者ではないのだとつくづく思った。

最後に、今回教材となった鳥体は、全て衝突などの事故により得られたものであることを念を押しておきたい。お蔭さまで、私はしばらく焼き鳥を食べる気になれそうもない。



ココ

ハ～イ、目線ちょうど、ノハラツグミ～ノ (撮影・田中富夫)

## 野鳥情報

- カワウ ◇4月14日、浦和市中尾の上空を16羽の雁行（草間和子）。
- アオサギ ◇4月2日、川本町明戸で1羽（諏訪隆久）。
- ゴイサギ ◇3月21日、浦和市宿で1羽（佐藤晶人）。
- クロツラヘラサギ ◇4月10日午前8時15分、渡良瀬遊水池で若鳥1羽。3月15日まで本庄市の利根川にいた個体？（林 滋）。
- ミサゴ ◇4月3日、吉見町の赤沼で1羽（石井清澄）。
- ノスリ ◇4月3日、川越市の伊佐沼上空で1羽（石井清澄）。
- サシバ（渡り） ◇4月16日午前6時40分、本庄市の利根川南岸より利根川上空を赤城山方向へ28羽。同6時50分、同じく赤城山方向へ1羽。高度約300メートル。4月17日午前6時55分、同地で南岸より利根川上空を男体山方面へ14羽（町田好一郎）。
- ハヤブサ ◇4月14日、浦和市中尾の自宅上空で1羽（草間和子）。
- チョウゲンボウ ◇4月15日、浦和市秋ヶ瀬B区で♂1羽（福井 亘）。
- コチドリ ◇3月27日、所沢市久米で1羽（佐藤方博）。
- ムナグロ（初認） ◇4月3日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽（支部探鳥会）。◇4月17日、浦和市大間木地区で8羽。うち夏羽1羽（為貞真人）。
- オオハシシギ ◇4月2日、川本町明戸で1羽（諏訪隆久）。◇大宮市植田谷本の関沼で越冬していた個体の近況報告です。4月9日、夏羽になり始め、4月24日には、ほぼ完全な夏羽になりました（鈴木高士）。
- ソリハシシギ ◇4月24日、本庄市の阪東大橋下流で1羽（町田好一郎）。
- チュウシャクシギ ◇4月24日、本庄市の阪東大橋下流で1羽（町田好一郎、林 滋）。
- ヤマシギ ◇4月9日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽（海老原美夫）。
- ジシギS.P ◇4月6日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園で1羽（福井 亘）。
- ツバメチドリ ◇4月5日午後4時30分、本庄市の阪東大橋下流で2羽（町田好一郎）。
- コアジサシ（初認） ◇4月2日、川本町明戸で1羽（諏訪隆久）。◇4月6日、本庄市の阪東大橋下流上空で3羽、そのうちの1羽がホバリングからダイビングする。小魚を捕え、くちばしにくわえたまま西へ飛び去る（町田好一郎）。
- ユリカモメ（夏羽） ◇4月6日、浦和市秋ヶ瀬の荒川で1羽（福井 亘）。◇4月24日、本庄市の阪東大橋下流の中州に夏羽4羽、冬羽1羽（町田好一郎）。
- キジバト（人工物への営巣） ◇4月11日、与野市上落合の大宮日赤病院のダクトに営巣する（金井裕二）。
- コミミズク ◇4月9日、浦和市秋ヶ瀬A区で1羽（佐藤晶人）。
- アマツバメ ◇4月24日午前6時40分、本庄市の阪東大橋下流の中州上空で17羽（町田好一郎）。
- ヤマセミ ◇4月4日、日高町巾着田の高麗川で♀1羽。ハシブトガラスに追われる（塚原恵子）。
- カワセミ ◇4月4日、日高町巾着田の高麗川で♂1羽（塚原恵子）。◇4月24日、大宮市宝来の荒川河川敷で1羽（大橋義男）。
- アリスイ ◇4月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽（福井 亘）。◇3月27日、坂戸市の高麗川沿いで1羽（探鳥会帰途。黒田佳子、金子真理他）。
- ツバメ（初認） ◇3月27日、所沢市久米で1羽（佐藤方博）。◇3月27日、川本町明戸で1羽（諏訪隆久）。◇3月31日、鶴ヶ島町の太田谷沼で3羽（塚原恵子）。
- イワツバメ（初認） ◇3月21日、日高町の巾着田で10羽（佐藤方博）。◇3月27日、川本町明戸で1羽（諏訪隆久）。
- ムネアカタヒバリ ◇4月2日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽（海老原美夫）。
- ヒヨドリ（渡り） ◇4月18日、浦和市鹿手袋上空を南から北へ約50羽（海老原美夫）。
- モズ ◇3月31日、寄居町の林業試験場で♂♀つがいで行動する（逸見隆典）。◇4月

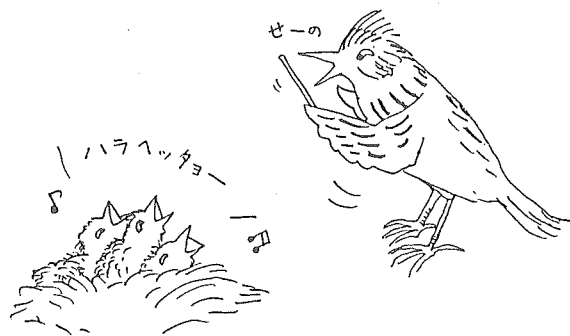
6日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森でキビタキのさえずりのまねをする(福井 亘)。  
 ◇4月20日、浦和市鹿手袋でヒナ4羽巣立ち(海老原美夫)。  
 ヒレンジャク ◇4月3日、戸田市道満で1羽(手塚正義)。◇4月24日、熊谷市の大麻生ゴルフ場西端の林で約20羽。つる性の植物の実をついばむ(諏訪隆久)。  
 ノビタキ ◇4月16日、大宮市宝来の荒川河川敷のアシ原で夏羽の♂1羽(大橋義男)。  
 ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬の大久保浄水場付近の田圃で♂1羽(大橋義男)。  
 アカハラ ◇4月15日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(福井 亘)。  
 シロハラ ◇4月15日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(福井 亘)。  
 オオヨシキリ(初認) ◇4月26日、浦和市鹿手袋で1羽(海老原美夫)。  
 エゾムシクイ ◇4月22日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。  
 センダイムシクイ ◇4月30日午前6時、熊

谷市報恩寺で1羽(鈴木忠雄)。  
 エナガ ◇3月31日、寄居町保健所前の林で2羽(逸見隆典)。  
 ホオアカ ◇4月15日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(福井 亘)。◇4月24日、大宮市宝来の荒川河川敷で1羽(大橋義男)。  
 ミヤマホオジロ ◇4月6日、浦和市秋ヶ瀬ピクニックの森で♀1羽(福井 亘)。  
 アオジ ◇3月20日、所沢市北秋津でさえずる(佐藤方博)。◇4月22日、大宮市日進町でさえずる(森本國夫)。  
 オオジュリン ◇4月2日、浦和市円正寺の草原で夏羽の♂1羽♀2羽(横山 忠)。  
 マヒワ(越冬) ◇3月31日、浦和市秋ヶ瀬ピクニックの森で30羽。昨年12月23日より子供の森とピクニックの森で継続観察する(福井 亘)。  
 カケス(渡り) ◇4月16日午前6時50分、本庄市の利根川南岸上空より赤城山方向へ4羽。4月17日午前6時40分、利根川南岸上空より男体山方向へ4羽(町田好一郎)。

## 【6月のみどころ】

軽井沢や日光などでは、夏鳥達のさえずりがさかんです。さえずりで鳥の名前がわかればどんなにいいでしょう。そこで、今月は、見どころならぬ、聞きどころといきましょう。

森に入って、一番よく聞こえるのが、ヒガラの声です。これは、「チチピン、チチピン」とか「チーピン、チーピン」というシジュウカラよりも高く澄んだ声で鳴きます。ヒガラの声が確実にわかるようになれば、他のさえずりが、それまでよりも、はっきり聞こえてくるはず。あとは、特徴のある覚えやす



(カット・押川歳子)

いものから、確実に覚えていくことです。忘れても、忘れても根気よく続けることです。

(藤原 寛治)

### 表紙の説明

#### ノハラツグミ (ヒタキ科 ツグミ亜科)

初めノハラツグミの話聞いた時、それほど珍しいとは思わなかった。名前に覚えがあったからである。しかし、凶鑑を見て改めて迷鳥だと知る。一見シロハラとツグミの間

のように見えた。北方から来たのだろうか、バードウォッチャーに見られているのに平気な様子だ。春になり、北の繁殖地に無事もどってほしいものである。(写真と文・田中富夫)



雨続きのいやな季節がやってきました。でも子育てに大忙しの鳥達は、家でぶつぶつ言いながら寝転がってはいられません。そんな彼女達を励ましに、今月も探鳥会へ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、(もしあれば) 双眼鏡などです。

参加費は、一般 = 100円、会員及び中学生以下 = 50円。予約申し込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かししたり、植物を荒らしたりなどしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

### 荒川村・日野溪谷探鳥会

期日：6月5日(日)

集合：午前10時 秩父鉄道武州日野駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:30発→寄居9:01発  
→武州日野9:56着 / 西武秩父線所  
沢8:01発→西武秩父9:19着、秩父  
鉄道乗り換え、御花畑9:41発→武州  
日野9:56着

解散：午後2時ごろ

共催：埼玉県(全国野鳥保護のつどいキャン  
ペーンシリーズ)

担当：海老原、福井、林、金井

見どころ：オオルリ探して溪谷の道を。梅雨  
入り前、そろそろうとうしい空模様  
ですが、せせらぎの中、あの青い光と  
美声を楽しめれば気分爽快。なお、ア  
カショウビンは期待しないで下さい。

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：6月19日(日)

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または  
午前9時 浦和市立郷土博物館前  
(北浦和駅の場合、その後バス利用)

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、乗田、手塚

見どころ：梅雨の晴れ間の田園風景を眺めな  
がら、楽しむ鳥は、カルガモの親子に  
カッコウに。心のなごむひとときをど  
うぞ。

### 三芳町・多福寺探鳥会

期日：7月3日(日)

集合：午前8時45分 東武鉄道上福岡駅北口  
または午前9時30分 多福寺駐車場  
(上福岡駅の場合、その後バス利用)

交通：埼京線大宮8:13発→川越8:33着、  
東武東上線乗り換え8:37発→上福岡  
8:42着 / 武蔵野線南浦和8:08発  
→北朝霞8:19着、東武東上線乗り換  
え、朝霞台8:29発→上福岡8:42着

解散：午後1時ごろ

担当：福井、藤原、黒田

見どころ：雑木林の初夏景色。しっとり潤  
った木立、雨上りの雑木林もまた素敵  
です。見上げれば、雫の光る葉を揺ら  
して通り過ぎる小鳥の親子達。餌をね  
だって甘えながらも、一人立ちのため  
に勉強中の子供達をはげましてあげま  
せんか。





## 『しらこぼと』袋づめの会

とき：6月25日(土) 午後1時～3時ごろ  
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階  
第1講座室(浦和駅西口から県庁通り  
西進、中山道を左折し約600m右側)  
案内：毎月お手元に届く『しらこぼと』、そ  
の発送のための袋づめ作業は、会員の  
皆さん自身の手で行なわれます。袋づ  
めなんていうと、退屈そうに聞こえる  
かも知れませんが、どうしてどうして、  
賑やかでネアカで貴重な情報も飛び交  
う、ちょっとよそにはない味のある会  
です。あなたも一度どうですか。

## 野鳥写真クラブ定例会

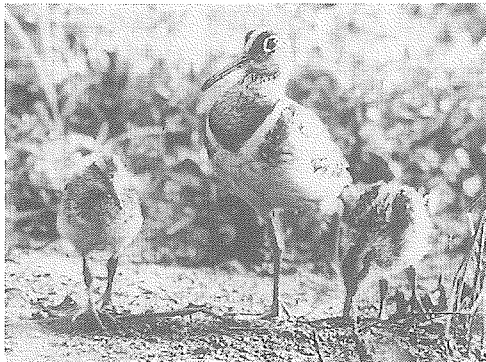
とき：6月25日(土) 午後3時ごろ～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ  
案内：写真の腕を上げたい人、腕を見せびら  
かしたい人、ただ撮ってはいけい人、  
カメラを買うお金はないけれど写真を  
見るのは好きな人、みんな集合。誰で  
も気軽に仲間になれて、「写真」につ  
いて何か得ることのある会なのです。

## 個人的きまま野鳥記 3 タマシギ

ある推理小説を読んでいたら、老人が、こ  
う言う場面があった。いつまでも、ひとりで  
いるのは、かわいそう。いつまでもふたりで  
いるのは、ごくろうさま。

にやっとして、自分自身のことや、独身の  
鳥友のだれかれのことを思いだしているうち  
に、連想はタマシギにまで及んだ。

タマシギは、雌は自分のうんだ卵を雄にあ



- 7月9日(出) 坂戸市・高麗川探鳥会
- 7月10日(日) 熊谷市・大麻生探鳥会
- 7月17日(日) 浦和市・三室地区探鳥会
- 7月24日(日) 浦和市・室内スライド大会  
(カット・押川歳子、鈴木高士)

ずけ、他の雄を探しに行ってしまう。残され  
た雄は、卵を抱き、孵化させ、うまれた雛を  
一所懸命育てる。

だから、タマシギとその老人の言葉とは直  
接に関係はないが、なぜか無理なく連想して  
しまった。

わりと人気のある野鳥だが、なかなか会う  
ことができない。あまり水が深すぎず、ある  
程度の広さの餌場が確保できる湿地と、安心  
して身をかくすことができる葦原などがセッ  
トになっている環境が少なくなっているせい  
だろう。

数年前に私がこの写真を撮影した自宅近く  
の田んぼは埋め立てられ、この親子が休息場  
にしていたガマ原は、今は巨大なマンション  
が建っている。

夏の夜、犬を散歩させながら、闇の底に響  
くコォォ、コォォという声に耳を傾ける楽し  
みを失って久しい。(五条壇武男)

# 行事報告

3月21日(月、祝) 秩父市 羊山公園

人 43人 天気 曇 鳥 キジバト コゲラ  
ヒバリ キセキレイ セグロセキレイ ビンズイ  
ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグ  
ミ ウグイス エナガ コガラ シジュウカラ メ  
ジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ ア  
オジ アトリ カワラヒワ マヒワ ウソ イカル  
シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボ  
ソガラス ハシブトガラス (32種) 今にも泣き出し  
そうな空も、探鳥会が終るまでちゃんと待ってく  
れて、赤、青、黄色、お目当ての鳥がいろいろ出  
てきて、藤野リーダーの尽力で畳の上でお茶をい  
たいてお昼を食べて、良かった良かった。

3月26日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 浅沼源太郎、岩波勇一、榎本  
秀和、海老原教子、海老原美夫、神場真文、佐藤晶  
人、登坂久雄、藤野富代、宮内武昭、吉田二三子、  
渡辺孝章 (12人)

3月26日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 12人 作品発表した人 5人



コハクチョウ (撮影・町田好一郎)

3月27日(日) 坂戸市 高麗川

人 42人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ  
マガモ カルガモ コジュケイ キジ クサシギ  
イソシギ キジバト ヒメアマツバメ ヤマセミ  
カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレ

イ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モ  
ズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス  
エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ ア  
オジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクド  
リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37  
種) 前夜は雪、でもこの日は暖かな良い天気。ス  
タートからカワセミ出現で幸先よし。ヤマセミもち  
らり。また、70羽位のマヒワの群れも姿を見せて  
くれた。解散後にはヤマセミはほぼ全員で見られ、  
アリスイまで登場。言うことなし。

4月3日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

人 66人 天気 曇後晴 鳥 カワウ コサギ  
マガモ カルガモ オナガガモ トビ コジュケイ  
キジ コチドリ ムナグロ タシギ ユリカモメ  
シラコバト キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ  
ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ  
ヒヨドリ モズ ヒレンジャク ツグミ ウグイス  
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ア  
オジ オオジュリン カワラヒワ マヒワ シメ  
スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシ  
ブトガラス (40種) 頭の黒い夏羽のカシラダカ、  
今年初めてのムナグロなどを楽しんでいると、昨日  
まで居なかったヒレンジャクが、赤い尾の先、き  
ついで10数羽。十分堪能して鳥合せを始めると、  
カワセミが魚をとって見せてくれて、マヒワが現  
われて、出来すぎ二重丸の探鳥会。この次がこわい。

4月10日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 52人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ  
ダイサギ コサギ アオサギ クロツラヘラサギ  
オシドリ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ  
オナガガモ シマアジ ハシビロガモ ホシハジロ  
トビ ノスリ チュウヒ コチドリ シロチドリ  
ハマシギ イソシギ タシギ ユリカモメ コアジ  
サシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ  
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ セ  
ッカ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ  
ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラ

ス(42種) 広大な遊水池、心地よい春風、鳥と関係なくとも最高の気分。そこへもってきて、夏羽のシマアジの美しい姿やクロツラヘラサギも見られて全く言うことなし。

#### 4月17日(日) 浦和市 三室地区

人 61人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ キジ コチドリ クサシギ タカブシギ イソシギ タシギ ジシギ SP ユリカモメ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ノビタキ ツグミ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(35種) 新年度から浦和市立郷土博物館の後援で、支部独自の行事となった。夏姿のタヒバリやユリカモメを始め、次回の探鳥会では見られない冬鳥達にお別れ。運の良い人はノビタキも見られた。

#### 4月22~24日(金~日) 東京都 三宅島

人 20人 天気 晴後曇一時雨 鳥 コアホウドリ クロアシアホウドリ オオミズナギドリ ハイロミズナギドリ オーストンウミツバメ カツオドリ ウミウ ヒメウ ゴイサギ アマサギ チ

ユウサギ スズガモ ミサゴ トビ サシバ コジュケイ キジ メダイチドリ ムナグロ キョウジョシギ タカブシギ メリケンキアシシギ イソシギ ジシギSP アカエリヒレアシシギ トウゾクカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ コアジサシ ウミスズメSP カラスバト キジバト ツツドリ アオバズク ヒメアマツバメ アマツバメ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ ルリビタキ イソヒヨドリ アカコッコ ツグミ ウグイス イイジマムシクイ ヤマガラ\* シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル スズメ コムクドリ ハシブトガラス(61種)

本部の園部総務部長を講師として迎えての充実した探鳥会だった。眠たい目をこすりながら大路池で、アカコッコ、イイジマムシクイ、カラスバトなど特産種をたっぶり、また伊豆岬では、なんとカツオドリの勇姿も。帰りの船上からは、船酔いにも負けず、コアホウドリ、クロアシアホウドリ、オーストンウミツバメなど次々現われてくる海鳥を堪能した。園部さん、そして民宿の方ありがとうございました。最後に、こんなすばらしい三宅島の自然を、地元の人も望んでいない飛行場建設のために絶対こわしてはいけないと強く思った。(※オーストンヤマガラ)

### 参加者の声

#### 三宅島の鳥見三昧

石川順子(浦和市)

まさに鳥見三昧でした。

すれちあ丸は、たいしたゆれもなく、4月23日午前4時50分三宅島三池港に到着し、私たちのぜいたくな時間が始まったのです。

到着後すぐ探鳥、朝食後探鳥、昼食後探鳥夕食後の探鳥(聴鳥?)、翌朝5時から朝メシ前の探鳥、帰路船上で探鳥。「何とタンチョウな生活!」と感激の(?)グジャレを發したのは、荷物持ちにつき合わされた筆者の夫。仕事を忘れ、世間を忘れ、野鳥たちの懐に頬をうずめたような幸せな2日間でした。

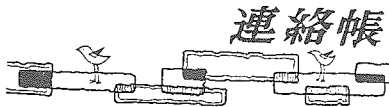
して、この探鳥旅行のスターたちは?何と言っても、オレンジ色のボレロ姿で何度もごあいさつのアカコッコ。どこからでもきこえてくるイイジマムシクイの声。大路池の主ミサゴ。伊豆岬沖を渡るアマサギの群。オチャメなオーストンヤマガラ。荒磯でデートのメリケンキアシシギ。闇に響きわたるアオバズクの声。2日目にしてやっとおすまし顔でポーズをとってくれたカラスバト。真打ち登場とばかり

に、大路池最後のコマドリ。海上のカツオドリ、コアホウドリ、オーストンウミツバメ等々超豪華キャスト。どの鳥との出会いも強く印象に残りました。

埼玉県支部の探鳥会参加は2回目ですが、初対面の人とすぐ仲良しになることができるので、ヤミツキになりそうです。

うれし涙のハードスケジュールを企画、引率して下さった北川さん、本部からお越し下さった識別のオニ園部さん、役員・リーダー・参加者の皆さん、楽しい探鳥旅行ありがとうございました。





### 総会のお知らせ

場所：埼玉会館（浦和市高砂3丁目1番4号・浦和駅西口から県庁通り西進徒歩約5分右側）6階6B集会室

日時：昭和63年6月26日（日）

午後1時 受付開始

1時30分～2時30分 記念講演「日本野鳥の会の活動と展望」塚本洋三（本部常務理事）

午後2時30分～4時 総会

議題：昭和62年度事業報告及び決算について、昭和63年度事業計画及び予算について、役員を選出について。

年に1度の総会です。今年は県南で開催、お集まりください。

### 県自然保護課との懇談会

県自然保護課からの呼びかけで、4月22日午後1時から3時30分まで、浦和市岸町7丁目・あけぼの会館にて、県支部役員たちとの懇談会が開かれました。

県からは川崎亮自然保護課長・和田隆雄鳥獣保護係長ら7名、支部からは今井昌彦支部長をはじめ田村照治・海老原美夫・榎本秀和・草間和子・福井恒人・海老原教子の副支部長・幹事・事務局ボランティアなど7名が出席、予定時間をこえるなどやかな話し合いが続けられました。

### 夏鳥分布調査はがきを同封しました

前月号でお知らせした夏鳥分布調査のはが

題字『しらこぼと』＝山下静一（財）日本野鳥の会会長、イラスト見出し＝鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

きを同封しました。5月10日から7月10日までの調査期間内にあなたのフィールドで観察した鳥の名前とおおよその数を書き込んで、切手をはらずにポストに投函してください。

差し出し有効期限は8月10日です。お早めをお願いします。

### 会員数は

5月20日現在870人です。

### 活動報告

- 4月16日 研究部会（夏鳥分布調査票発送）。
- 4月17日 編集部会議、総務部会議、役員会議（司会・石川敏男、各部の報告、県自然保護課との懇談会、『しらこぼと』5月号から1,100部に増刷、野鳥情報の取り扱い、次期支部長・副支部長について、その他）。
- 4月21日 AZバードウィーク展打ち合せ。
- 4月25日 『しらこぼと』三種郵便認可申請手続き。
- 4月26日 『しらこぼと』5月号校正（大武昭雄、西城戸司、森本國夫）。
- 4月27日 都内渋谷区南青山にて樋口広芳氏帰国記念パーティー（海老原出席）。
- 4月29日 シギ・チドリ類県内一斉調査。
- 5月2日 『しらこぼと』5月号発送。



今朝（5月2日）、5月号を郵便局にエンヤコラはこびました。夜、6月号の原稿を書いています。毎月毎月、みんなの努力が積み重なって、49号に。三種郵便の認可申請手続きもすませて、何か月か先に認可されるかどうかを待つ今、ついガラにもなくいろいろ考えちゃってますけど、きのうツツドリ、今日センダイムシクイの便り、外は夏です。

がんばろうね。（海老原美夫）

『しらこぼと』 1988年6月号（第49号）

定価 100円（会費に含まれます）

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎ 0488（32）4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

（本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）